

食育事業取組報告書(外ヶ輪小学校)

食育活動区分	(該当するものを口で囲む) 育てる・作る・食べる・返す	実施年月日	令和4年4月から令和5年3月
教科名	総合的な学習の時間	指導者	教諭 大木 尚樹 教諭 細野 朋美
単元名	「新発田の食の魅力を探ろう」		
ねらい	○新発田の食を支える人たちとかがわることを通して、それらの人々の思いや願いに気付き、新発田の食を多くの人に広める意義や自分たちができることを考え、地域の発展を願って、積極的に町づくりにかかわることができるようにする。		
	児童・生徒の活動	支援・指導上の留意点や資料	
	<p>「新発田の食の魅力を探ろう」 5年生は、米作りを体験し、新発田には、他にどんな食の魅力があるのか調べた。自分たちが住む新発田市は、どのように食を盛り上げているのだろうかという課題を解決するため、生産者の方や市の行政の方から協力いただき、学習を進めた。</p> <p>【第1次】 ○問題解決に進むきっかけ ・田植えを行い、米作りや新発田の食について関心を高める。 ・ウェビングを行い、新発田の食の魅力について考える。 ・新発田の食について自分のテーマを決めて調べる。 ・調べたことをプレゼンテーションでみんなに伝える。 ○気付き ・生産者の方々のお話を聞き、新発田の食や生産者の魅力に気付く。</p> <p>【第2次】 ○気付き ・市の農林水産課の方の話から、新発田市が力を入れている食について知り、まだまだPRが足りないことに気付く。 ・新発田の生産者と私たちをつないで食を盛り上げている人々がいることに気付く。 ○問題設定 ・もっと新発田の食について知ってほしいという願いをもち、自分たちに何ができるか考える。 ・新発田の食をPRするにはどんな活動がよいか話し合う。 ○問題解決のための活動 ・ポスターとチラシで新発田の食をPRする。</p> <p>【第3次】 ○発信 ・生産者の方の願いや食の魅力が伝わる工夫について話し合い、ポスターとチラシを作成する。 ○振り返り ・「地域の食を考える」の振り返りをする。</p>		<p>◆インターネット等を活用して調べることも多いが、実際に会って話を聞くなど、体験的な活動も大切にしている。</p> <p>◆ファシリテーションの際に、シンキングツールを活用する。シンキングツールを活用することで、ゴールを見据え、自分達の話し合いを可視化することができるので、スムーズに話し合うことができる。ツールの活用すると、話し合いの観点や収束の道筋が、誰にとっても見て分かりやすいため、効果的に話し合うことができた。</p> <p>◆タブレット端末導入により、ロイロノートでプレゼン作りをすることができた。</p>
成果と課題	<p>【成果】①新発田の食について興味をもつことができた。自分が学んだことを家の人に伝える姿も見られた。 ②話し合いは、思考ツールやホワイトボードを使って行った。グループでまとめた考えを全体で共有し、さらに話し合うことができた。 ③タブレット端末が使えるようになり、効果的に自分たちの考えを伝えることができるようになった。</p> <p>【課題】PRする活動を考える際に、子どもたちからマルシェやイベントをしたいという考えが出されたが、感染状況から別の方法で考えさせた。来年度は、感染状況が落ち着き、子どもたちの様々な発想が実現できるといい。</p>		
家庭・地域との連携	市役所の農林水産課と連携して行った。生産者の方を紹介していただいたり、新発田の農業の現状を話していただいたりした。学習の様子をお便りで保護者にも伝えた。		